歴史・文化のまちづくりタウンミーティング2「津島の町家・町並み」

第2部　対談→鼎談→車座→座談会「津島の町家・町並みの魅力を語る」

■伝建地区のお話がありましたが、今となっては津島では無理と思うがいかがか。
■最終的には国が決めることで、今の津島の状況をどう判断するかは微妙なところだと思う。建物の町家の１つ１つは愛知県下ではトップ。このクラスの町家がこれだけの密度で、ある長さのところに建っている町並みというのは（なかなかない）。もう一つ言えるのは、今より歯抜けになると津島のまちの魅力は失われてしまうので、結構そのギリギリのところにきていると思う。
■まちの骨格はきれいに残っているのでそれは大事にしたいと思う。骨格が残っている上に、いくつかのいいものがまだ残っている。
■国の重伝建地区は文化財保護法の制度で、古い建物が残っていないといけないが、基本的にまちづくり。住民の生活のための改変は認めているし、主役は歴史ある建物だが、空き地になっているところも、駐車場の出入り口に塀を設けるとか、色々な気遣いをしていくことによって、まだまだ津島の町並みが町並みとして向上する余地がある。私はまちづくりの観点から絶望することはないんじゃないかと思う。
■津島の町家は表通りに面した商家だけじゃなくて、その裏にある職人さんのまちも大事にしないと。津島にはそういう職人さんのまちがしっかりある。
■通り沿いの大店だけで成立しているわけではなくて、例えばお屋敷一つとっても通り沿いの主屋だけじゃなくて、裏には庭があるし、離れ、お茶席、土蔵もある。それと他の地域、周辺がある。それをどういった制度で、どうサポートするか。全部一つの制度では多分難しいだろう。
■足助は国の町並み保存地区になっているが、通り沿いは文化庁の制度、全体を景観重点地区に指定して、周辺も含めて広くケアをして色々な日々の営みに対する補助・規制をしている。津島のまちをどう考えていくか、これが大事な点になってくる。
■商家の並んでいるエリアと職人さんたちのエリアと、大体棲み分けていると思う。それぞれに色々な手法を使っていくのはありかと思います。
■高山は伝建地区が二つ、周辺は景観上、網をかけてある。それと違うのが名古屋の町並み保存地区。やっぱり周りも見ていかないといけない。
■高岡の山町地区。鋳物の金屋町地区（職人町）。造りが全く違う。
■高岡の山町は残っている物をしっかり見せている。結構古いものを見せているので、一杯残っているような感じがするが、比率からすると半分は残っていないのではないか。
■表通りに面した職人町でなく、住居兼の本当の裏通り、そういう家並みが（津島には）結構ある。津島はそれ（職人町）もセットでやらないといけないと思う。
■津島の建物のほとんどは濃尾地震以降のもの。高い２階建ての建物は全部濃尾地震の後でできたもの。
■最近郡上八幡の町並みが伝建になったが、大正時代の町並み。それでも伝建地区になっている。要するにそこの町並みを作っている建物のルールがある程度あって、それに基づいた建物がいくつ、群として残っていてまちの雰囲気を醸しているか。
■津島の場合は濃尾震災以降の建物が主体になって、高さが高くなったりはしているが、以前のものの延長線上にある。ある種の伝統に基づいたものなので、そういったものは同じに評価する。概ね戦前までは同じで（ように評価して）いいのではないか。
■足助では足助川を挟んで川の対岸までは本町。足助は町並み保存地区にするときに、同じコミュニティなのに、伝建の指定地域からは外れてしまう（地域がでてくる）。その時は住民の方は非常に反対された。「文化庁の制度はモノとしての町並みの話なので悪いけどここで線を引かせてもらう。ただし周辺のところも景観等の制度で住み続けられるものは担保しますよ」ということを同時に進めていった。

■地区にあった例えば町並みでいえば規制やその裏返しで（にある）補助は、かなりきめ細かに見ていかないと、住民の方も全部同じにされると困るところも出てくる。
■津島のまちづくり、どんなまちにしたいかを考える民意をいかに動かすか。行政は何ができて、民間はどうすべきか、この津島においてどうしたらいいのかが一番問題で。津島は建物は古くてすごい。それをまちづくりに活かすためにどうしたらいいかが一番重要ではないかと思う。
■手が入らないままの家、空き地が増えてきている。そういうのをどうしようか、どう使っていくか。本町はずっと使い続けてきたと思う。今流に使う知恵とそのための金と、人手というものを注ぎ込まないといけない。それと昔もそうだったように、本町というのは（住む人が）入れ替わっていた。それが起きてもいいのかなぁと。
■本町１丁目の町内の方の参加が少ないのが非常に残念。住んでいる人はそれほど何も思っていない。逆に人が集まってくると、ゴミの問題、騒音の問題、色々害の方が先に考えついて、人が来ることに対して喜ぶ住人が少ない。市にお願いするとしたら、このまちに住んでいる人の考え方を変えるような努力をしていただきたい。市の方針をしっかり出していただいて、この町内の人に分かっていただけるようなそういうことを今望んでいる。
■まちの機能を果たせなくなった旧家が部分的に残っているという印象を受ける。まちの機能がないと町家自体が衰退していくし、本町筋はかなり広い筋だがどういった部分に焦点を当てるか。
■本町筋で私が知る限りで３、４か所ぐらい、市役所で買ってくれないかという話があった。入ってくれる人を紹介して、補助するような、そのようなシステムができれば、まちの活性化になるのではないかと。そこは新しい血を入れていくという考え方を取り入れていかないと。空き家対策だと思う。そこら辺に行政の役割があると思う。
■犬山は色々な仕掛けをしていった結果とまちの人がそれに応えたことと、外からそうだったら行くかということで店を出したり、遊びに来ていただいている結果が今の状態。
■まちは保存するところと保存しないところとあっても当然だと思う。
■それぞれのところでそれぞれのところのやり方をどうやって創り出していくか。その仕掛けをみんなで考えながら、役所もやれることはやる、市民側の中の人もやれることはやる、外から来た人にもしっかり付き合ってもらうということかなぁと思っている。やりようはいくらもあるで、そういう仕掛けをみんなでしていく。いっしょにやりましょう。
■若い人材は結構いる。やりたい人もいる。住みたい人もいる。戻ってきたい人も僕たちの世代の人たちがいる。実は人材はあるが、動きたいと思っている人材と、実際にこの地域に住んでいる方々と、あまりにも価値観もしくはリズム感が違って、そういう難しさを非常に痛感している。住んでいる人たちの意識をどう変えていくのか、そういうアクション、リズム感にぜひ行政についてきて欲しい。
■窓口を作っていただけたらと思う。
■私（講師）ができることは建物を継承すること。この辺りの町家を維持するのにすごくお金がかかる。
■私がよく言うのは、「お孫さんたちを手なづけなさい」。お孫さんはサラの状態だから、「こんな家に住んでみたい」とか、将来、「じいちゃんの家でこんな商売やりたい」って思うかもしれない。色んな価値観がある。
■私は基本的には住み続ける、使い続けることがまちの原則だと思う。でもそれじゃ足りないから、入っていただくのはもちろんですが、まずは住み続ける。使い続ける。その枠、仕組みづくりをしないとだめだと思う。そのための枠組みづくりが、私の専門的な対場から言えば、一番津島にとって必要なことじゃないか。その上で、ビジネスチャンスを担保することにもなるんだと思う。何も約束はされていませんが。
■制度（づくり）とか、行政はお手伝いはできるだろう。ただ、そこでやっていくのは住民の方がやっていかないといけない。人づくりだとかソフトの部分は自立してやっていける、そのためのハードのところは何とか行政がサポートしなければいけないと思う。
■基本的には制度作り等も住民の方でやるのは、住民の方がまちをいかに愛しているかということなんだと。私が言っているわけじゃなくて、足助の今やっている連中はみんなそう言うんです。色々なことのルール決めの委員会もあるが、行政の人間はアドバイザーとしては座っているが、基本的に住民が全部決めている。
■やっぱり地場で住んでいる方がどう住み続けられるか、そこから出ていった人がまた戻ってこられるか。自分が生まれところ、記憶の片隅に残っているまちにまた戻ってくるか、住み続けられるかっていうのが私はまず最優先。そこでベースができた上で、外の血もＯＫ、入れていこうというぐらいの構えでいないと私はちょっと違和感がある。

■祭りはコミュニティの原点と思っているが、その祭ができないところがある。人がまちにいなくなってしまっているってこと。祭が伝統的にやられている、300 年、400 年と続いている祭りがあって、町内でやっている。それがきちんと伝承されて、それをやっていることが楽しいと、そういうことを興していかないとコミュニティはできないし、繋いでいくことはできない。そこら辺りもまちづくりと一緒に、まち全体を考える上において、大事にしていかなくてはいけない。
■町並みの生き死にが、いつか？という議論。色々なところの町並みをやっている先輩に聞いてみたところ、「それはね、祭が無くなったときだよ、まちが死ぬときは。」と。祭が残っているところは、うまくいっていますね、確かに。それを賄いきれないところも現実にあって、家に入るのかどうかはさておいて、祭りに関しては、余所の人も入れているところもある。
■商売も大事だけど、祭りみたいなことも含めて、まずはコミュニティに入ってきてもらって、そこでサポーターを増やしていくというやり方も、すぐの実効的な町並み保存には効果がないかもしれないけれど、まちづくりには非常に大事だと私も個人的に同感します。
■犬山、足助、有松は地域のまちの性格付けが明快。方針が出ている。津島のまちの性格付け、どの地域をどうするか、まちづくりに活かしていくかという骨格・方針がはっきりしない。まち・町並みを維持するには、経済的な問題がある。方向性、どの地域・どの区画を活かしていくかをはっきりさせる必要がある。
■どの拠点をどのような方向性、どういった筋道でやっていくか？　(何を拠点にしていくか)
■まちづくりというと、旧市内のある特定の地区のものが活かされないといけないだろうと思うが、まちの方向性がどこかで提示されると意見も活発に議論されると思う。若い方の意見も活きると思う。
■前の第３次総合計画では観光第一としていた。総合計画に対して行政として反省がない、作っただけ。総合計画に書かれていることをやってもらいたい。それに向かってやっていけば動くだろうが、市役所の色々な課がバラバラ。１つの方向を決めてそれに向かってみんなでやっていけばいいのではないか。
■総合計画は色々たくさんのことをやると書いている。そういうもの。だが、一番に観光と書いたらそれはやらなくてはいけない。（進捗管理を）きちんとしなければいけない。引き続き一番にするかはみんなで議論して決めること。
■現に住んでいらっしゃる方がどう思うかが第一義。当たり前のこと。とはいえ、住んでいる人、住んでいた人が、持て余したところが現にいくつかある。傍から見て使ってないようにみえる空き地等をどうしていくか。また、変わってもいいのではないかと思っているところは一緒に変えていきましょう…という動きがあってもよいと思っている。
■空き家はこれから何にでも使える、ある意味資源・資材。それに対して“対策”はどうも楽しい言葉ではない。
■空き家の他の事例として、尾道の空き家再生プロジェクトを紹介
■このまちでどうしていくか、これから皆さんと話をしていきたいと思っている。
■津島市の核は、津島神社、そしてイベントの最大のものは祭りである。ところが祭りはその祭りの当日はあるが、いつ来ても天王祭のまちだ、秋祭りのまちだという状態にない。一年間のうちのある「点」で、祭り。ここでは天王祭をいつでも知ることができるというようなものがない（秋祭りも同様）。いつ来ても祭りの様子を見せると、知りたくなる、来たくなるというようなことになると思う。
■各町家でお茶室のあるところが沢山ある。茶室に行ったら、おもてなしをしてくださるようご協力をお願いする。津島神社にも協力をお願いして、例えば巻藁舟づくりを見せてもらうとか。朝祭は、物凄く待つ。スピーディでない。コンパクトにして、一点集中で盛り上がるような、飽きないお祭りの作り方にすることにより、見てみようかなと思ってもらえるのではないか。今の祭りは各町内のマスターベーション的。もっと周囲に広げていくような形をとることが必要なのではないか。
■伝統的食材を宣伝する。野口米次郎など郷土の偉人を世に知らせる。（色々な資源を）宣伝することによってまちや町並みも様々なものを活かしていくことになるのではないか。
■犬山祭も時代時代で工夫している。観光は個人的には難しいと思っている。妻籠もディスカバージャパンの頃とは変わっている。昇龍道プロジェクトで、バスで行って、妻籠では１時間（滞在）、その後、下呂の温泉へ。散策はすごく少ない。ワーッと来て行ってしまう。高山も同じ。犬山も。
■違った観光もある。足助は伝建になっても観光客は変わらない（増えていない）。香嵐渓とは離れている。中馬のおひなさんとか、色々なイベントをしている。おひなさんでは、まちに向かって店先を開く。裏通りの家でも飾っている。有松は秋に生け花の先生とタイアップして、空き家の店先や軒先に生け花を飾る。たくさんの人が来ている。ちょっとしたきっかけづくりで、そぞろ歩きをしてくれる。多様な観光がある。も

う少し、まちに対して各々のお宅が開いてくれるといい。玄関先まで入って見ることができたら変わる。ちょっとしたことの積み重ねで津島は変わるのではないか。観光と言っても日常の営みを見せる。
■40 年前に高山で観光プロジェクトを立ち上げたことがある。成功の要因は軸がはっきりしていた。市役所、観光協会、エンジニアがぶれなかった。資金は、地元負担、市補助とも難しいので、他から貰った。国から１～３億円ぐらい。地域を活性化させるための予算で、５年計画を立てた。高山は（当時は）アクセスが悪かった。システムづくり。人が寄るところは、古い町並み、屋台会館、陣屋、朝市２ヶ所、農村テーマパークくらいしかない。結果、祭がベースでそのときしか来てくれない。常時は古い町並みだけ。それだけでも客を呼んでいた。それはメディアの使い方がうまかった。どういう時でもメディアを呼んでいた。企画室長が第３セクターに入って、利益が出る構造にして、それで成功した。
■この 20 年間で犬山の宣伝の仕方が変わった。犬山市は名鉄とのタイアップ。立地的にも持っている物に違いはあまりない。そのときの見せるネタを。20 年の差がでてきている。ネタの出し方、見せ方が圧倒的に違う。宣伝を変える必要を感じている。役所は変えようとしている。まちの皆さんも何か変わっていただきたい。玄関先に物を飾る。ショーウインドウに飾る。このまちに行けばその時期のものが見れる、飾ってあるというような取組みをこのまちを上げてやっていきたい。
■足助は住んでいる人がやる。商家でなくなっても、ちょっとずつの面倒くささを分けて。その面倒くささを共有してまち全体としてのイメージがアップすればそういう雰囲気を皆求めているだろうし、観光にも、ビジネスチャンスにもつながるだろう。少しずつ負担し合っていかないとまちの魅力は向上していかない。津島はモノは良い。もったいない。ちょっときっかけ作りをするだけで津島のまちのイメージが上がるような気がする。格子が閉じていると訪れた人は寂しい思いしかしないだろう。
■ちょっとずつ負担することが続けるには大事。必ずしも商売でなくて、隣近所で展示したものを見るのとまちの関係ができていく。続けていく。
■祭をもっと大事にしなければいけないと思う。よその祭に津島の祭りは負けるとは思わない。ＰＲが悪い。行政に助けてもらってやっていきたい。
■マスコミの使い方が大切。近くでなく、北海道や九州で宣伝して成功した事例あり。津島は、ロンリープラネット（外国人の旅行ブック）に載ることをねらいませんか。
■藤まつりで神社にバスが来る。でも、「神社はどこにある？」と。まちなかに全然入って来ない。ＰＲ不足。藤まつりに山車が出て来る。そんなことしないで、山車蔵の前で飾っておけばいい。そうすれば、まちなかを人が通る。ウィンドウにお雛様を飾る話は一人二人でなく、きっかけを作れば町じゅうで乗ってくる人は沢山ある。
■都市計画道路は大事。道路計画で一部立ち退きして。でも、50 年経っても実現していない計画って？道路買収での余剰地もそのままちょっとずつ残っている。個人ではどうしようもない。住んで良しというまち、見ていいまち。新しい道路ができると、しばらくは、新開地。南本町はやっとできてきた。池須は、新開地。余剰地のことも市が考えていかないと美しいまち、住みたいまち、行ってみたいまちにはなりません。
■津島生まれの津島育ち、物心ついた時からこういうまちで暮らしてきた。この年になるまでこれだけの評価を受ける宝だとは知らなかった。大学の先生から評価を受けるのは初めて。カルチャーショック。市民が評価、活用できるよう意識付けが無かったのは残念。
■４大まつりで売り出している。春の藤まつりでは、町並みと藤をガイドボランティアの協力で、ご案内するプランを用意。行政主導も結構、観光協会主導も結構だが、元から住んでいる市民がよく理解することが大事だと思う。
■歴史・文化ゾーンを拠点にしたまちづくりが大切だと思っている。皆様と一体となってまちづくりを進めていきたい。